

## 児童婚の撲滅にむけて ドウロット・マラ (バングラデシュ)

シファット・E・ザイド、バングラデシュ・シェイク・ムジブ医科大学 (BSMMU) 精神科医は、「児童婚の撲滅にむけて、もっと社会意識を高めなければならない。少女を取り巻く貧困と不安定な社会状況が、バングラデシュの児童婚の主な原因となっている。幼くして妊娠することにより、少女たちは、深刻な健康面および心理面の問題にさらされる。」と述べています。

児童婚は、世界的に称賛されているバングラデシュの発展の影に隠れた「パラドックス」といえます。バングラデシュは、政治、産業、女性の社会的エンパワーメントといった分野において、周辺地域の中でも、評価指標が上昇している国です。しかし、残念ながら、児童婚の割合も、周辺地域で一番高い数値となっています。

バングラデシュでは、児童婚の撲滅にあまり進展が見られません。ユニセフのデータによると、少女の約 66% が 18 歳になる前に結婚します。15 歳になる前に結婚する少女の割合は 3 分の 1 を超え、持参金をめぐるトラブルの犠牲になったり、幼くして妊娠したために深刻な健康リスクを背負ったりすることがほとんどです。



貧困、教育の不足、安全上の懸念、熱帯地方ならではの社会風習といったことも、学校に通う年齢の少女たちが結婚する主要な原因となっています。こうした少女たちは、その後、長期にわたって健康上の問題を抱え、また、自分の子どもや家族の世話をするという心理的プレッシャーにさらされることになるのです。

医師や心理学者によると、中年女性の鬱の主要な要因の 1 つに、早期の結婚が挙げられるとのことです。これは社会的配慮が必要とされる問題です。

また、地方の児童婚の割合は驚くほど高いのですが、結婚を登録するという風潮があまりないために、実際にその現実を示すデータがありません。社会的安全を理由に、学校に通う年齢の少女を早く結婚させたいと考える家庭もあります。結婚をせずに 10 代で妊娠したり、若くしてシングルマザーになることは、バングラデシュの社会では、あまり普通のことではありません。早期の結婚とは、出産する前の段階で、結婚という 1 つの枠組みの中で少女を守る選択肢である、と家族は考えるのです。

こうした考えのもと、最近、政府は、早期の結婚を防止する 2014 年の法案で、結婚の最低年齢を引き下げる動きを見せており、社会的な懸念が広がっています。現在、結婚の最低年齢は、少女で 18 歳、少年で 21 歳なのですが、先日の閣議で、結婚の最低年齢を少女で 16 歳に、そして少年で 18 歳に引き下げることが提案されました。

人権などをテーマにした 47 の非政府団体のプラットフォームである「バングラデシュ女

子差別撤廃条約（CICBD）に関する市民イニシアチブ」は、国連子どもの権利条約や、18歳未満の少女や少年を子どもと定義するバングラデシュの法律に言及した上で、こうした動きに対する強い懸念を示しています。

児童婚の撲滅は、現政権が取り組むべき主要な課題の1つであり、結婚年齢の引き下げの動きには疑問があります。

また、児童婚は国際的な広がりを見せる問題でもあります。イギリスで2014年に開催された、第1回ガールズサミットでは、バングラデシュのシェイク・ハシナ首相が、しかるべき措置を取り、児童婚を撲滅することを固く誓いました。

早期の結婚を阻止するには、少女たちに読み書きする能力をさらに付けることが必要です。バングラデシュでは、初等教育を受ける少女の数がこの20年で飛躍的に増加し、現在では95%を超えています。さらに、初等教育を修了する子どもの数にいたっては、少年よりも少女の方が多という状況になっています。

バングラデシュ政府は、児童婚を撲滅する国家の法令や法的枠組みの強化に向けてすでに動き出しています。1929年の児童婚制限法に関しては、現行の内容を改正し、違反者への厳罰化を進める予定です。

2013年に通過した新しい子ども法では、児童婚に対する救済策の拡大と、幼くして花嫁となった少女に対する支援を定めています。バングラデシュでは、「Girls, not Brides（少女を花嫁にしないで）」というキャンペーンが国中で展開されており、児童婚に反対する動きが加速しています。



法律の改正に加え、政府は、児童婚の防止に関し、期限を決めて目標を達成する、ナショナル・アクション・プランの制定を目指しています。「2021年までに、15歳未満の少女の結婚を撲滅し、数十年以内に、すなわち2035年までに、全ての児童婚を撲滅したいと政府は考えています。」と、ガールズサミットで首相は語りました。

バングラデシュの政治家は、結婚の登録に対して意識を高める取り組みをさらに進め、また、オピニオンリーダーへの啓蒙も進めるべきです。そうすれば、オピニオンリーダーは児童婚に反対する声をあげるようになるのです。

バングラデシュ女性議会の調査によると、児童婚の犠牲者は全員、学校に通う年齢の少女です。調査では、最年少の犠牲者は10歳でした。幼くして花嫁になるという経験は、肉体的、心理的、社会的にマイナスの結果をもたらします。出産するにしても、まだ肉体的に未成熟であり、さらに、生まれた子どもの面倒を十分に見ることもできません。

児童婚は、健全な繁栄を目指す国家の発展を鈍化させます。バングラデシュは、早期の結婚の撲滅に向けて活動を進めています。